

令和元年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
「災害時小児・周産期医療体制の構築と認知向上についての研究」
研究代表者 海野信也 (北里大学医学部 産科学・教授)

分担研究報告書

分担研究課題「災害時小児周産期リエゾン研修会の充実に関する研究」

研究分担者 岬美穂(国立病院機構災害医療センター・臨床研究部医師)
中井章人(日本医科大学多摩永山病院・院長)
伊藤友弥(あいち小児保健医療総合センター・医長)

研究要旨

平成 28 年度より災害時小児周産期リエゾン研修の開催が開始された。当初は平成 28 年熊本地震での活動事例を元に研修資料作成がなされていたが、その後、毎年災害が発生し、その度に各地域の災害時小児周産期リエゾンが活動をおこない、実際の活動を通じて新たな課題や問題点、また必要と思われる知識があげられるようになった。平成 30 年度末には厚生労働省より災害時小児周産期リエゾン活動要領が出され、その活動要領に基づいた研修内容が求められるようになったため、昨今の災害経験で得た新たな知見も盛り込み、研修内容の改訂を実施した。研修会のさらなる充実化を目的とし、本研究では新しくなった講義内容を評価すべく、研修受講生に対してアンケート調査を実施。結果としては、受講生に理解して頂きたい全項目において、受講生の 90%以上が研修後アンケートで「少し理解している/理解している」と回答し、現行の研修内容で受講生が理解すべき内容はカバーできていると考えられた。自由アンケート記載欄では、「時間が短すぎる」、「内容が詰め込みすぎる」といった意見が多く書かれており、限られた研修時間で大量の内容を詰め込んでいるのは事実である。研修前アンケート結果によると、災害医療の一般的知識(例えば「災害医療体制」「災害医療の考え方(CSCATT)」など)について「全く分からない/ほぼ分からない」と回答した人は 50%以上おり、この部分に関しては事前に e-ラーニングを取り入れて事前学習をして来ていただくことで、研修時間にゆとりを持たせ、総合演習やディスカッションなど研修会の場でしか経験できないことに時間を割けるのではないかと考えられた。また、1 回だけの研修で知識を維持するのは難しく、フォローアップ研修を要望する意見も多くあり、技能維持研修や再受講、知識を維持するための e-ラーニング教材の作成について今後検討が必要と考えられた。

研究協力者

並木由美江(全国保育園保健師看護師連絡会・理事)

A 研究目的

平成 28 年度から開催開始した災害時小児周産期リエゾン研修において、平成 30 年度末に災害時小児周産期リエゾン活動要領が出され

たため、この活動要領に基づいた形で、近年の実災害での活動経験から得た新たな知見も盛り込み、今年度、研修内容の改訂をおこなった。本研修のさらなる充実化を目的として研究を実施。

B 研究方法

研修受講生に対して、研修前と研修後にアン

ケート調査を実施(表1)。理解度と今後の改善点につき評価、検討をおこなった。

C 研究成果

受講生 198 名のうち、研修前アンケート 161 名(回収率 81.3%)、研修後アンケート 137 名(69.2%)より回答あり。研修前アンケート(図1)では、15 項目のうち 10 項目で 70%以上が「全く分からない/ほぼ分からない」と回答。しかし、研修後アンケート(図2)では、全項目において「全く分からない/ほぼ分からない」との回答は 8%以下となった。この結果より、受講生に理解していただきたい項目は、現行の講義内容でカバーできているものと考えられる。

また自由記載欄では、以下の意見が多く挙げられた。

- ・研修のタイムスケジュールがタイトすぎる
- ・e-ラーニングを取り入れて効率化を図って欲しい
- ・1回だけではなく、定期的に受講したい。フォローアップ研修を開催してほしい

D 考察

受講生の 90%以上が、研修後アンケートの全項目において「少し理解している/理解している」と回答しており、講義内容としては現行の内容で必要な項目はカバーできているものと考えられた。ただ、研修の効率化や限られた研修時間の有効活用を考えると、受講生から多く意見をいただいた e-ラーニングについて導入は検討すべきではないかと考えられた。特に、災害医療の一般的知識についての講義(例えば「災害医療体制」「災害医療の考え方(CSCATTT)」など)については e-ラーニングとして取り入れることが可能と思われる。実際に、受講生の研修前アンケート結果を見ても、災害医療の一般的知識について 50%以上が「全く分からない/ほぼ分からない」と回答しており、ただ知識の提供だけであれば e-ラーニングの活用は有用であると思われた。実際に短い時間に大量の知識を詰め込む研修になっており、さらに理解を深めるため

にもフォローアップ研修や再受講、知識維持のための e-ラーニング教材の作成なども今後検討していく必要があると考えられた。

E 結論

現行の講義内容は、災害時小児周産期リエゾンが得るべき知識を習得できる内容となっている。しかし、限られた研修時間をより効率的に活用していくためには、e-ラーニングの導入を今後検討していく必要があると考えられた。また、知識の維持のためにも、フォローアップ研修や再受講、技能維持のための e-ラーニング教材の作成についても今後、検討が必要と考えられた。

F.健康危険情報
なし

G.研究発表

1. 論文発表

中井章人. 災害時小児周産期リエゾンの養成の実践と課題 東京都. 周産期医学. 2019; 49 (9): 1206-1219

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

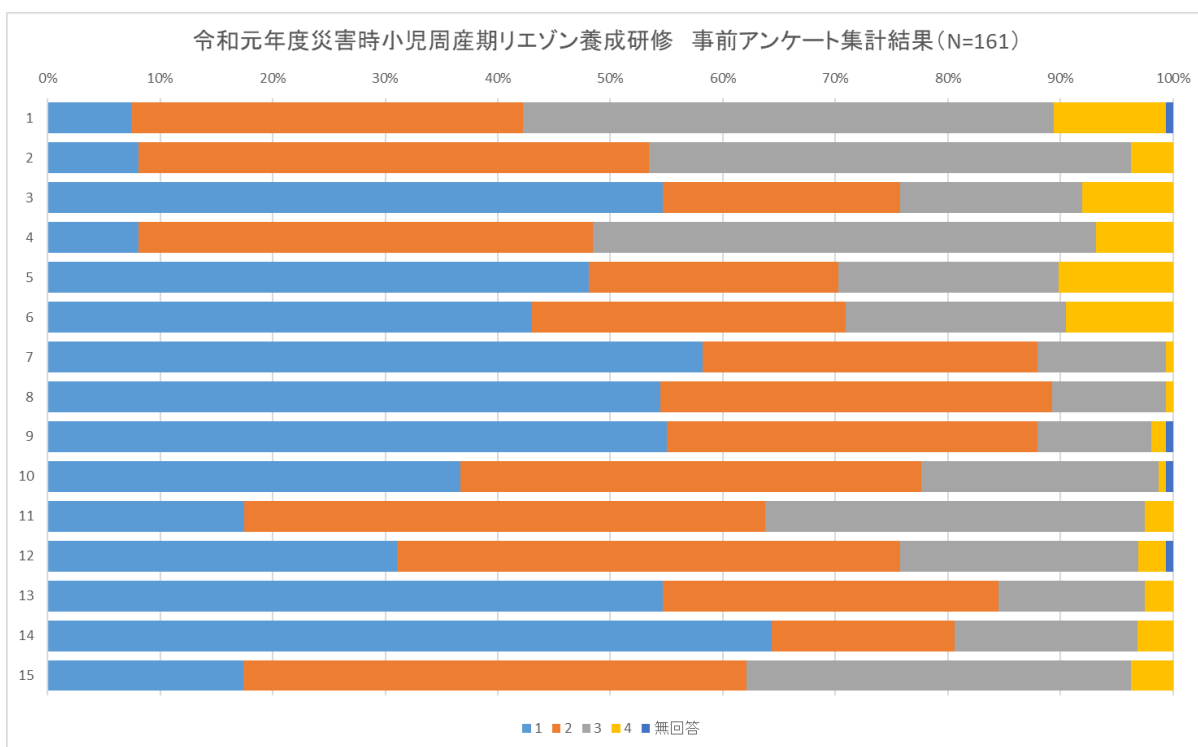
なし

表1

Q

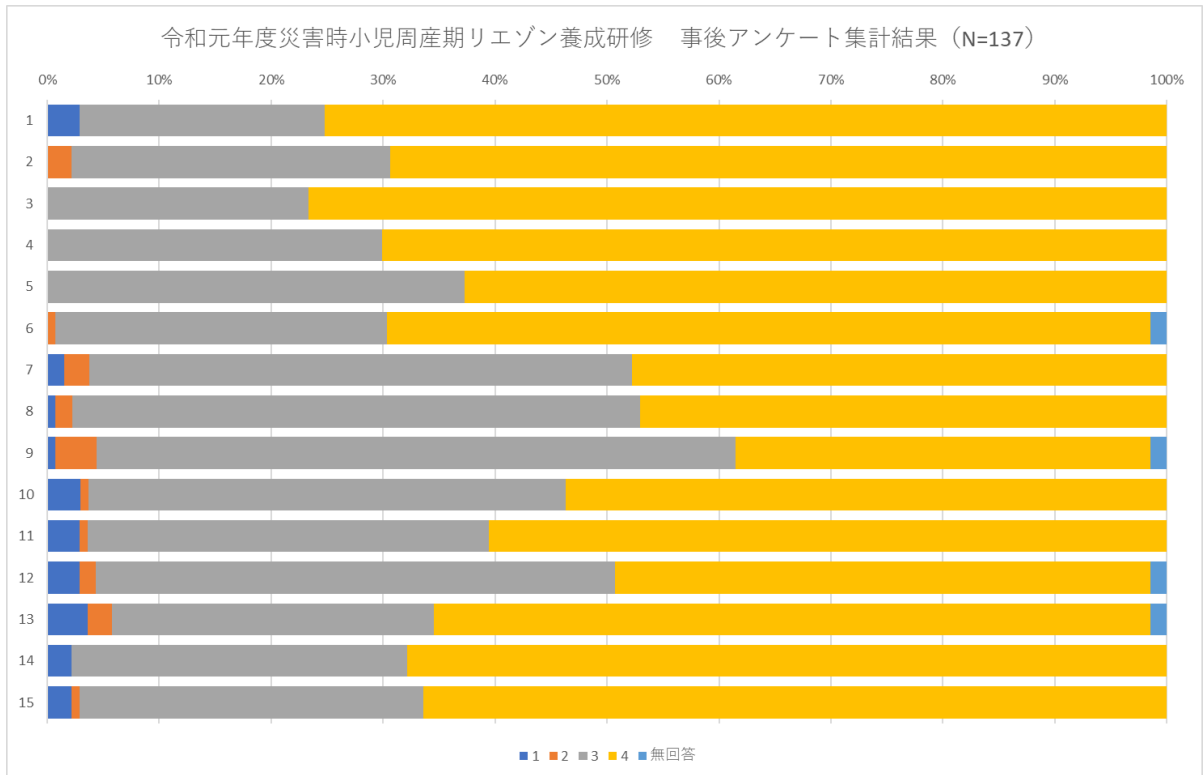
1. 平時と災害時の医療体制の違いはわかりますか？
2. DMAT や保健医療調整本部については知っていますか？
3. CSCATTT について知っていますか？
4. 小児・周産期の立場で、収集すべき情報はわかりますか？
5. EMIS について理解していますか？
6. 日本産科婦人科学会の災害時システムを理解していますか？
7. コンタクトリストに加える連絡先はわかりますか？
8. 医師派遣の調整方法(依頼のしかたなど)はわかりますか？
9. 物資や資機材の支援方法はわかりますか？
10. 搬送調整の際に注意すべきことはわかりますか？
11. 小児・周産期の立場で、避難所で気にすべきポイントはわかりますか？
12. 災害時に非専門家にできる心のケアは理解していますか？
13. リエゾン部門の立ち上げ方法はわかりますか？
14. クロノロジーの書き方はわかりますか？
15. 小児・周産期の立場で、災害時に備えて準備しておくことはわかりますか？

図1 研修前アンケート結果



1 全くわからない/全く知らない 2 ほぼわからない/聞いたことはある 3 少し理解している/少し知っている 4 理解している/よく知っている

図2 研修後アンケート結果



1 全くわからない/全く知らない 2 ほぼわからない/聞いたことはある 3 少し理解している/少し知っている 4 理解している/よく知っている